



図書館だより



2024年
2月16日号

秋草学園高等学校 図書館

本屋大賞のノミネート 10 作品が先日発表されました。毎年楽しめる本が取り上げられるとあって、注目度は年々高まっています。発表を早速確認して、未読の本を制覇しに図書館を訪れた人もいました。図書館では展示コーナーを作っています。ぜひ見に来てください。このコーナーでは読みたい本が貸し出し中のこともありがちです。あきらめずにカウンターで予約をしてみてください。全読破し、大賞受賞作がどの本になるか予想をたててみませんか？

贈る言葉に代えて

3年生のみなさんの登校日も後わずかとなりました。今頃は高校生活を惜しみ、友人や先生との貴重な時間を大切に過ごしていることでしょうか。読もうと思っていた図書館の本を、大慌てで読む3年生の姿も見受けられます。卒業後も、人生のヒントがたくさん詰まった本を使って、皆さんが未来を豊かに過ごしていかけてくださることを願っています。

S367-ウ 『女の子はどう生きるか』
上野 千鶴子 || 著 岩波



あなたの人生の主演は、あなたです。女性をとりまく社会の変化が目に見える時代に生きる皆さん。これからの時代の常識は、大きく変わっていきます。一人一人が自分らしい選択を行う力を持ち、知恵や感性を磨くことが重要です。社会に潜む差別や刷り込まれた価値観に縛られないよう、皆さんが日常的に抱くモヤモヤや疑問について、ここで一度考えてみませんか。

911.1-ウ 『源実朝 コレクション日本歌人選51』
三木 麻子 || 著 笠間書院

～君ならで 誰にかみせむ わが宿の
軒端ににほふ梅の初花～

門出の喜びや悲しみの心で花を見たら、皆さんにはどう見えるでしょう？ 鎌倉三代将軍実朝は多くの優れた和歌を残し“彼は、自分自身の自然感覚よりは、もっともっと深く、それに似通ったものをうたっている古歌の表現を愛している。彼が真に愛したのは言葉である。何故とって、言葉には文化があるからである。”（『中世の文学伝統』風巻景次郎著 岩波）と評されています。美しい日本の文化の上で生きる皆さんの今の心に寄り添う和歌や言葉を探してみてください。きっとより深く感じられるものがあるでしょう。

本屋大賞ノミネートから

913.6-ウ 『レーエンデ国物語』
多崎 礼 || 著 講談社

『指輪物語』のような王道ファンタジー。レーエンデは呪われた地でありまた不思議な魅力のある地域です。琥珀色の古代樹の森に空を舞う泡虫。聖イジョル二帝国内にありながら、外地の影響をほとんど受けていません。15歳になったユリアは父とレーエンデへの冒険の旅に出ます。

913.6-オ 『君が手にするはずだった黄金について』
小川 哲 || 著 新潮社

95%の真実に混ぜた5%の嘘はバレにくいと言われます。本作は30代小説家の主人公目線の短編集。体験談なの？と思わせるような語り口で、彼が過ごしたかもしれないよく似た無数の未来を私達にも体験させてくれます。小説という嘘で。言葉はそうして想像力の扉を開いてくれます。

新着コーナーの気になる本

913.6-ク 『東京都同情塔』
九段 理江 || 著 新潮社

第170回芥川賞受賞作。生成AIを利用して作ったと話題になりました。AI時代の言葉が浸透した社会はどんなものか。同情されるべき人々のためのシンパシータワーは世の反対を押し切って建つのか。女性建築家は物事を現実化するには、言葉の力が必要だといいます。

E-ウ 『おすしが ふくを かいにきた』
田中 達也 || 作 白泉社

絵本ですが、写真で表現されています。ミニチュア写真家・見立て作家による作品です。店員さんは一人一人個性があり、姿見は光るクリップ、長いカウンターテーブルは定規、積み重ねられた皿は摩天楼のようです。気が付くとショッピングのワクワク感に巻き込まれます。

司書の今月はこの本読みました

琥珀には“虎のたましい”という意味があると『虎のたましい人魚の涙』くどうれいん || 著 講談社に書いてあったと、読んだ人から教わりました。そう言われると、琥珀がよりロマンティックに感じられてしまうのは不思議です。そういえば、虎ですっと気になっていた「山月記」『李陵・山月記』中島敦 || 著 新潮文庫 の元となったといわれる「人虎伝」『唐人説書』を、この機会に『漢文名作選4』（920.8-か4 大修館書店）収録の「人虎伝」の現代語訳部分だけですが読んでみました。初めて知った驚愕のエピソードに、大元の李徴がそこまでやっていたとは。 【鈴木】